

■習志野市谷津干潟自然観察センター

■住所：千葉県習志野市秋津5-1-1 ■HP：<http://www.seibu-la.co.jp/yatsuhigata/>

■ブログ：<http://www.seibu-la.co.jp/yatsuhigata/blog/>

■Facebook：<https://www.facebook.com/yatsuhigata/>

■施設概要：ラムサール条約登録湿地・谷津干潟に隣接する谷津干潟公園の拠点施設。館内から干潟に飛来するシギやチドリなどの渡り鳥が観察できる。なお、館内にカフェを併設。施設周辺には緑地と淡水池が整備され、谷津干潟の周囲を巡る遊歩道は観察シェルターや観察デッキが設けられている。

■発注元：習志野市

■受託年：平成27年4月～

※指定管理者として、NPO 法人生態教育センター・西武造園（株）・林造園土木（株）による共同企業体「谷津干潟ワイズユースパートナーズ」が運営する。

■職員人数：4名

※他に西武造園（株）・林造園土木（株）から合わせて4名を配置

■休館日：月曜日、年末年始

●谷津干潟の概要

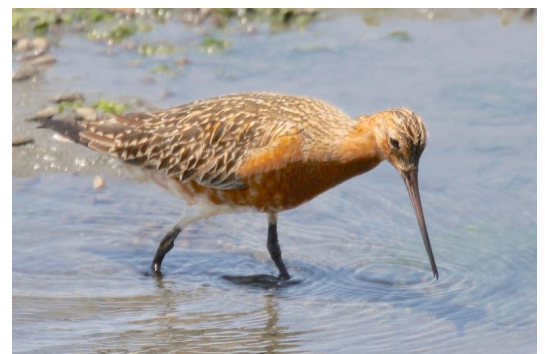
谷津干潟は、東京湾奥部千葉県習志野市にある、埋立地に囲まれた面積約40ヘクタールの干潟。東京から車で約30分のところにあり、周囲は住宅地となっている。干潟は2本の水路で東京湾とつながっており、潮の干満がある。

干潟に飛来する水鳥はシギやチドリ類、カモ類、サギ類など年間約70種、公園内に飛来する陸鳥は年間約50種が観察できる。干潟内にはヤマトオサガニなどのカニ類、ゴカイ類、ホソウミニナ、アサリなど底生生物が豊富に生息する。他にボラやアカエイなど魚類、ミナミアオサなどの海藻類、各種プランクトン類が観察できる。

谷津干潟は、17年に及ぶ市民による干潟保護運動の末に1988年に国指定鳥獣保護区に指定された。現在の谷津干潟の土地所有者は環境省。1993年、北海道・釧路で開催された第5回ラムサール条約締約国会議で同条約に登録され、干潟としては日本で最初の登録地となる。1996年、渡り性水鳥の保全を目指す東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップに参加。



谷津干潟全景（京葉測量株式会社提供）



オーストラリアと北極圏を移動するオオソリハシシギ

●業務実績

令和2年度の総来館者数は24,765人。その内38団体に対応を行い、2,227人の方にプログラムを提供。その他、イベントを21回行い4,828人が参加、平日2回、土日祝日に2回館内プログラムを行い1,031人が参加した。また、企業の社会貢献活動や大学のインターンの受け入れにも協力し、社会貢献活動では3社35人、インターンでは5校58人を対応。

令和2年度は、新型コロナウイルス対策で、引き続き団体利用やイベントの制限があるなか、出来る限りのイベントや団体対応を行った。通常の通りの運営として十分ではなかったが、コロナ禍でも公園利用者や施設利用者に安全な自然体験を提供した。

●主な事業

1. 環境教育・広報の取組み

谷津干潟の水鳥や様々な干潟の生物の観察を通じて、谷津干潟の大切さを伝える活動を行っている。館内の観察フロアに常駐するレンジャーやボランティアが来館者を案内し、より興味・関心を持つ層には各種テーマで自然観察会や自然体験のプログラムを提供している。

また、各種発行物やブログ、フェイスブックなどの媒体を使って情報発信を行い、普及啓発に取り組んでいる。



レンジャーによる個別の案内



小学校への団体対応



館内ガイドウォーク

2. 市民参加の取組み

観察センターの事業の趣旨に賛同する約 140 名の市民が施設ボランティアとして登録している。将来の谷津干潟の保全や観察センターを担う人材の育成を目的に、小中学生を対象に「谷津干潟ジュニアレンジャー」プログラムを提供。また、谷津干潟の保全とワイズユースをテーマに活動する高校生・大学生たち「谷津干潟ユース」を支援している。令和2年度の延べ活動人数は718人。



ボランティアによる案内活動



谷津干潟の日に宣誓するジュニアレンジャー



谷津干潟の日にクイズラリーを開催した谷津干潟ユース

3. 谷津干潟の保全・地域協働の取組み

谷津干潟の保全は、谷津干潟保全等推進計画(平成27年環境省関東地方環境事務所作成)のなかでも、国や行政、地元関係者、地域住民が協働で進めていくこととすると謳われている。そのため、ラムサール条約登録を記念して毎年実施するイベント「谷津干潟の日」でも、地域協働で企画・運営し取り組んでいる他、谷津干潟で社会貢献活動をする地元企業との連携、近隣地域の催し物への参加など、地域連携で保全に向けての活動に取り組んでいる。



毎年開催されるイベント「谷津干潟の日」

4. 国際交流・ネットワークの取組み

ラムサール条約登録をきっかけとする習志野市とオーストラリア・ブリズベン市(ブーンドル湿地)との湿地提携に基づき湿地交流を行っている。自然情報の交換のほか市民訪問団を相互に派遣している。また、国内外の湿地との交流や国際会議への参加も行っている。

